シリーズ《生き続ける文化財》 : 『祇園祭』2023

前祭と後祭のはざまの 7/22 に京都市文化観光資源保護財団が祇園祭の親子体験教室を開催しました。前祭巡行を終えた放下鉾の会所でお囃子体験をし、南観音山で山搭乗体験をするもので、小学生の親子 30 組をネットで募集したところ、直ぐに一杯になったといいます。放下鉾保存会の皆さんは、巡行を終えたばかりですが、コンチキチンの演奏を子供達に熱心に教えていました。こうした地道な取組が祇園祭のこれからを支えていくのだと実感しましたので、その様子をご覧下さい。

《ご紹介》

今年の祇園祭(2023)は「すべてを元に戻す」という宣言から始まった。御輿渡御の出発にあたり、八坂神社・野村明義宮司は神社石段下で「4年ぶりの御輿ぶりをよろしくお願いたします」とみなにあいさつした。今年、発足100年の節目となる祇園祭山鉾連合会では、木村幾次郎理事長が「同じことを粛々とさせていただくことが大事。これから100年、200年とつながっていくよう頑張りたい」(京都新聞)と語った。いずれも、「継続は力なり」という確信が伝わってくる。

今年話題になったのが、山鉾巡行での高額 観覧席であった。京都市観光協会が前祭で、 1 席 40 万円の「プレミアム観覧席」を創設し たのだ。山鉾の辻回しが間近に見れる河原町 御池の南西角に、屋根付きの特設観覧席が 84 席設けられ、65 席が売れたという。外国人観 光客らが気迫のこもった巡行の姿を堪能した。 この企画は、観光庁の「観光再始動事業」に採 択されたもので、青森ねぶた祭などでも高額 観覧席が用意されており、国のインバウンド 戦略における「量から質」への転換の表れでも あった。年々増大する祭り運営費や祭りの維 持・継承に向けて、収入源を拡げることは欠 かせないと話している。

このプレミアム観覧席の東側、河原町御池の南東角にある京都信用金庫の交流拠点「クエスチョン」では、祇園祭山鉾連合会が呼びかけるクラウドファンディングに 10 万円を寄付した人が「辻回し」を鑑賞できるコースが新

祇園祭「プレミアム観覧席 |



■御池通北から南東方向 ※写真の右下側が 「プレミアム観覧席」 ※左側のビルは 「クエスチョン」



◆御池通南から北東方向 ※写真の下側が 「プレミアム観覧席」

親子体験教室(放下鉾会所にて)







《主催:京都市文化観光資源保護財団》

▶ 放下鉾





浴衣袖振る親子会証が鳴る

青

南

北

対

話

背

設され、前祭と後祭の両方で催された。今年 の河原町御池交差点は、南西角でプレミアム 観覧席、南東角で「辻回し」鑑賞コース、北西 部の京都市役所前では雑踏対策を強化した警 備本部が陣取り、話題に事欠かなかった。

山鉾巡行では、これまでに見られなかった レアな光景が見られた。後祭の山鉾巡行は、 これまで「くじ取らず」で2番目を北観音山が 進み、6番目が南観音山の巡行順であったが、 今年から1年ごとに交代することになった。 そこで、今年は南観音山が北観音山より先に 巡行するのだが、北と南の観音山は新町通に 建っており、出発地の御池通には北観音山の 方が近い。このため、巡行当日は北観音山の 後から南観音山が北上し、御池通の室町あた りで南観音山が北観音山を追い越して(写真)、 2番目でスタートしていった。

御輿渡御でも新しい試みがあった。八坂神社の氏子組織「宮本組」が1150年超の歴史上初めて、御輿を先導するボランティアスタッフを一般公募した。これまで白丁装束で朱傘を持つなどの役割を学生アルバイトに依頼してきたが、「奉仕に前向きな人を受け入れ、祭りを未来につなぎたい」とその思いを語った。

山鉾を収蔵する町会所では、築 150 年強の 伝統的な町家形式の会所である「郭巨山会所」 が、その様式を活かしつつ耐震・増築され、 日本建築学会賞(作品部門)を受賞した。同会所 は四条通に面するが、1907 年の四条通拡幅工 事により建物の前面が削られたうえ、建替や 増改築しようとしても、建物が面する道路条 件や防火基準などから思うようなものが建て られず不便を強いられてきた。そこで京都市 の歴史的建築物保存・活用条例をフル活用し、 既存の建物を保存建築物としたうえで、伝統 様式を活かしつつ耐震改修や増築を行い、建 築基準法に規定する地震や火災の安全性を確 保したのだ。同学会は「都市遺構を継承する先 ▶ 北観音山(右)を追い越す南観音山(左)



▶ 御輿渡御の担ぎ手たち



▶ 「郭巨山会所」と巡行







行事例をつくることで、保存でもなく開発でもない選 択肢を増やす企て | と評価している。

今年の祇園祭は「すべてを元に戻す」なかにも、次代 に向かう変化があった。